



埼玉県腸管出血性大腸菌検出状況 2017 年

埼玉県で 2017 年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 211 株でした。検出された 211 株の血清型・毒素型別を表に示しました。血清型では 13 血清型が検出され、最も多く検出された血清型は例年通り O157:H7 が 125 株 (59.2%) で、多い順に O26:H11 が 59 株 (28.0%)、O157:H- が 7 株 (3.3%) と続きました。

毒素型については、O157:H7 は VT2 単独産生株が 88 株検出されました。例年 VT1&2 産生株が VT2 単独産生株よりも多く検出されていましたが、2017 年は両者の検出数が逆転しました。O26:H11 及び O26:H- は、全て VT1 単独産生株でした。

分離された 211 株のうち、92 株 (43.6%) は患者発生に伴う家族検便や給食従事者等に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。非発症者からの検出率は O157:H7 では 30.4% (38 株/125 株)、O26:H11 は 74.6% (44 株/59 株)、O157:H- は 28.6% (2 株/7 株) でした。

検出された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数 (2017 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157: H7		88	37	125
O157: H -		3	4	7
O26: H11	59			59
O26: H -	2			2
O111: H -	1		3	4
O84: H -	1			1
O91: H -	2	1		3
O93: H7		1		1
O100: H -		1		1
O121: H19		5		5
O145: H -	1			1
O146: H10	1			1
OUT: H -		1		1
計	67	100	44	211

空欄:0

検出株の遺伝子型別は、MLVA 法による型別を実施しました。O157:H7 は 125 株が 50 パターンに、O26:H11 では 59 株が 17 パターンに分けられました。O157:H7 は、125 株中 59 株 (47.2%) が特定の MLVA 型に集積し、この型は関東近県を含む全国で分離されましたが、汚染源の特定までには至りませんでした。

2017 年は大幅な感染者数の増加がみられたことから、今後もその動向を注視し、防止に関する啓発活動を継続する必要があります。